

## 範囲指定なし 第3問 問題

次の各取引について仕訳しなさい。ただし、問題文で指示されている勘定科目以外は、許容勘定科目表から最も適当と思われるものを選ぶこと。

1. 保有している広島物産㈱の社債について、利札¥30,000の期日が到来した。
2. 決算にあたり、売買目的で購入した岡山工業㈱の株式（取得原価¥580,000）の期末時価は¥530,000であった。評価替えの仕訳を行いなさい。
3. 以前、鳥取商事㈱から裏書譲渡されていた約束手形¥450,000が不渡りとなったので、償還請求の諸費用¥50,000とともに鳥取商事㈱に請求した。なお、諸費用は小切手を振り出して支払った。
4. 外部に開発を依頼していた社内利用目的のソフトウェア（開発費用¥5,400,000は銀行振込により全額支払済み）が完成し使用を開始したため、ソフトウェア勘定に振り替えた。
5. 決算にあたり、期末商品の帳簿棚卸数量2,000個に対して、実地棚卸数量は1,980個であった。当該商品の購入単価は¥3,000である。棚卸減耗損の計上を行う。
6. 備品（取得原価¥1,200,000、減価償却累計額¥750,000、間接法で記帳）を除却することにした。除却時における備品の処分価値は¥200,000であると見積もられた。
7. 当期首にリース期間4年、リース料年額¥60,000のオペレーティング・リース取引を行った。本日、リース料年額の¥60,000を現金で支払った。
8. 新潟商事㈱は、増資を行うため2,500株を1株あたり¥60,000の価額で発行することにした。その結果2,500株の申込みがあり、株式申込証拠金は別段預金に振り込まれている。
9. 決算において、売掛金に対して貸倒引当金を¥180,000計上したが（仕訳済）、このうち¥60,000は税法上損金に算入することが認められなかった。なお法人税等の実効税率は40%とする。税効果会計に関する仕訳を行う。
10. 山形支店は商品¥280,000を原価で本店に送付した。山形支店の仕訳を行うこと。

## 範囲指定なし 第3問 模範解答

	仕		訳	
	借方科目	金額	貸方科目	金額
1	現金	30,000	有価証券利息	30,000
2	有価証券評価損	50,000	売買目的有価証券	50,000
3	不渡手形	500,000	受取手形 当座預金	450,000 50,000
4	ソフトウェア	5,400,000	ソフトウェア仮勘定	5,400,000
5	棚卸減耗損	60,000	繰越商品	60,000
6	備品減価償却累計額 貯蔵品 固定資産除却損	750,000 200,000 250,000	備品	1,200,000
7	支払リース料	60,000	現金	60,000
8	別段預金	150,000,000	株式申込証拠金	150,000,000
9	繰延税金資産	24,000	法人税等調整額	24,000
10	本店	280,000	仕入	280,000

### 【解説】

2. 取得原価¥580,000 > 期末時価¥530,000 ⇒ ¥50,000 評価損
5.  $(2,000 \text{ 個} - 1,980 \text{ 個}) \times ¥3,000 = ¥60,000$
8.  $¥60,000 \times 2,500 \text{ 株} = ¥150,000,000$
9.  $¥60,000 \times 40\% = ¥24,000$